

SEG記録【第5日目 2026年3月19日(木)】 担当:プレゼン5班

時間	コメント	写真
7:00	<p>ホテルがボストンに移ってから初めての朝食。ワシントンD.C.のホテルより種類は少なかったが、味は十分に美味しかった。パンケーキを自動で作る装置があり、試しに使ってみると想像以上に美味しく、見た目にも楽しい体験だった。カラフルなコーンフレークも置かれており、「これは本当に美味しいのだろうか」と思わず考えてしまった。他校の高校生も来ていたので話しかけてみると、東京から来ているとのことだった。朝食後は各自部屋に戻って出発準備。疲れが残っているのか、深夜テンションが続いているような生徒も数名いたが、それも旅の一部だろう。</p>	
9:00	<p>外に出て Andrew 駅まで歩くと、空気は少し肌寒かった。電車でMITへ向かうが、ボストンの電車は時間にルーズで、「到着まで1分」という表示が5分ほど続く場面もあった。街並みはワシントンD.C.とは異なり、高い建物が増え、どこか緊張感のある雰囲気だった。</p>	

10:00

磁性ナノ粒子を用いた治療の研究や、先生自身の経験を踏まえた大学院の説明を伺った。これまで抱いていた大学院のイメージとは大きく異なり、非常に興味を引く内容だった。質問も次々と出て、研修初日とは比べものにならないほど積極的に学ぼうとする姿勢に感動した。MIT内を移動しながらラボを紹介していただき、移動中も生徒たちは質問を続けていた。食事処では長尾先生を囲んで「質問会」が再開し、周囲から見ると少し不思議な光景だったかもしれない。先生は12時半ぎりぎりまで質問に答えてくださり、とても有意義な時間となった。



11:30

昼食はMITの学生センターラウンジで各自好きなものを選んで食べた。チリソースはかなり辛かったらしい。その後、MITの生協でお土産を購入した。特にパーカーが人気で、そろそろ金銭感覚が壊れ始めている頃だろう。集合場所に戻ると、みんなのバッグはお土産でパンパンになっていた。午後からは核融合研究所へ。緊張しつつも、好奇心とやる気に満ちた表情で向かった。



14:00

核融合研究所では2班に分かれて行動した。職員の方が英語で案内してくださり、全員が内容を完全に理解できたかは分からないが、普段触れることのない分野に触れたことは非常に貴重だった。



15:30

その後バスでハーバード大学のコープへ移動。チャーリーカードはやはり便利だ。コープは地下1階・地上3階の巨大な建物で、特に2階の本屋は映画に出てきそうな幻想的な雰囲気だった。ここでも人気はパーカーと動物のキーホルダー。MITとハーバード大学のキーホルダーを大量にバッグにつけている人もいた。当初はハーバード大学の学生センターで夕食をとる予定だったが、時間が早すぎてお腹が空いていなかったため、一度ホテルに戻ることにした。再び電車に乗り、今度は8駅分の移動。疲れからか、電車内でうたた寝する生徒もいた。先生方がそっと見守ってくださっていたようだ。



<p>18:00</p>	<p>夕食は近くのスーパーで買い出し。美味しそうなパイナップルを見つける人、サラダを買う人、昨日の残りを食べる人、日本から持ってきたご飯を食べる人など、まさに十人十色だった。</p>	
<p>19:30</p>	<p>明日の Karp Lab での発表に向けて、最終練習に励む姿も見られた。どれだけ準備しても不安は尽きないが、発表も質疑応答も、明日はベストを尽くしたい。</p>	
<p>22:30</p>	<p>就寝。今日は長い距離を移動したこともあり、みんな疲れた様子だった。明日はSEG最大の山場。しっかり休んで、明日に備えよう。</p>	